

本学は日本最北の国立大学として、北見市に立地しています。豊かな自然に囲まれた環境において、「自然と調和するテクノロジーの発展」をキーワードに、特色ある研究を推進しています。

北見工業大学 高等専門学校学生対象 インターンシップ募集

- 対象：高等専門学校本科4年生・専攻科生
 - 期間：令和7年7月～9月の1・2週間程度
 - 費用：研修料は無料
往復旅費・宿泊費について補助あり※
 - 申込：『北見工業大学インターンシップ受入申請書』
に必要事項を記載のうえ『インターンシップ
推薦書』を添えて、以下の申込先に送付して
ください。
 - 申込期限：令和7年6月13日（金）
 - ・往復旅費（居住地⇄北見）：本学取扱いによりJR・バスを使用する場合
全額本学 負担。（航空機は含みません）
 - ・宿泊費：北見市内のホテルを利用する場合は3,000円/泊を支給。
- ※本学取扱いに基づきます。募集要項で確認してください。

**機械電気系、社会環境系、情報通信系、応用化学系
各種プログラムを御用意しています。**

詳細は募集要項で確認してください。

- ・地球環境工学科
エネルギー総合工学コース/環境防災工学コース/先端材料物質工学コース/地域マネジメント工学コース
- ・地域未来デザイン工学科
機械知能・生体工学コース/情報デザイン・コミュニケーション工学コース/バイオ食品工学コース/
地域マネジメント工学コース

令和7年度高等専門学校学生インターンシップ募集要項

本学では、高等専門学校の本科4年生及び専攻科学生を対象に、以下のとおりインターンシップの参加者を募集します。

受 入 先：北見工業大学各コース等の研究室

対 象 者：高等専門学校本科4年生及び専攻科学生

受 入 期 間：7月下旬から9月下旬までの間の1～2週間程度（実質5～10日）を原則とします。詳細は申込先までお問い合わせください。

研修テーマ等：『令和7年度高等専門学校生インターンシップ募集一覧』のとおりに

費 用：

- ・研修料は無料とします。
- ・往復旅費（居住地⇄北見）：本学取扱いによりJR・バスを使用する場合全額本学負担。
（航空機は含みません）
- ・宿泊費：北見市内のホテルを利用する場合は3,000円/泊を支給。
- ・参加する学生は各自で必ず、学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険、またはそれに準じた保険への加入を済ませてください。

申 込 方 法：『北見工業大学インターンシップ受入申請書（別紙様式1）』に必要事項を記載のうえ『インターンシップ推薦書（別紙様式2）』を添えて、以下の申込先に送付してください。

申 込 期 限：令和7年6月13日（金）

申 込 先：〒090-8507 北海道北見市公園町165番地
北見工業大学 学生支援課 キャリア支援係
TEL:0157-26-9184 FAX:0157-26-9185
E-mail: gakusei02@desk.kitami-it.ac.jp

北見工業大学 令和7年度高等専門学校生インターンシップ募集テーマ一覧

NO	学科	コース	受入れ教員	テーマ名	研修の内容	対象学生 及び 受入可能人数	留学生	時期	実質実習 期間	備考
1	地球環境工学科	エネルギー総合 工学	林田和宏、稲葉一輝	ディーゼルエンジンおよびディーゼル噴霧燃焼の実験解析	実習内容の説明、実験装置の原理と操作方法の習得、実験解析の補助、実験結果のプレゼン発表、研究学生との懇談 他	機械工学系 若干名	応相談	9月～10月	5日	作業服の持参が望ましい
2	地球環境工学科	エネルギー総合 工学	森田 慎一、川合 政人	熱・化学エネルギー貯蔵システムの最適化解析	実験または解析ソフトウェアによるシミュレーションを行います。 1日目 インターンシップ実施内容と研究内容説明 2日目 実験の準備と実施、または3DCADによる解析モデルデータ作製 3日目 実験データの整理、または熱流体解析ソフトによるシミュレーション 4日目 実験データまとめ、または計算データまとめ 5日目 パワーポイント発表資料の作成、成果発表会	機械工学系 2人	応相談	8月～9月	5日	実習中は、感染防止マスク着用が必須。作業服、研究ノート（手帳、ルーズリーフなど可）、筆記用具を持参すること。ノートPC持参が望ましい。実験をする場合がありますので、動きやすい服装で運動靴（サンダル不可）を着用して下さい。 ※専攻科生で実質実習期間10日間希望のときは、相談下さい。
3	地球環境工学科	エネルギー総合 工学	梅村 敦史	系統に連系する変換器の解析と実験	実習内容の説明、実験装置の説明、操作方法の習得、実験回路の解析、実験の補助、実験結果のプレゼン発表、他	電気工学系若干名、電子制御工学系若干名	応相談	9月	5日	上履き
4	地球環境工学科	エネルギー総合 工学	植西 徹	二酸化炭素回収あるいは資源化装置の材料の試作と実験	1.対象学生と面談の後、研究テーマ（実験あるいは数値計算対象）を決定 2.研究に必要な知識の学習 3.研究室に所属の学生と混じって研究を実施	機械工学系1名、化学・物質工学系1名	不可	9月1日～9月26日	5日	実施内容、実施時期、実施期間は各高専の予定や単位の認定状況に合わせます。ご相談下さい。 持参物：ノートPC
5				二酸化炭素回収あるいは資源化装置のシステムの試作と実験						
6	地球環境工学科	環境防災工学	八久保 晶弘	ガスハイドレートの生成および結晶解析	メタンや空気、二酸化炭素等を包接するガスハイドレート結晶を実験室で人工的に生成し、ガス分析および結晶解析によりガス包蔵特性を明らかにする。	化学・物質工学系 若干名	可	8月～9月	5日	ノートPCの持参を推奨する。 実施時期については、要相談。
7	地球環境工学科	先端材料物質工学	木場 隆之	有機ELデバイスの試作と特性評価	真空蒸着法を用いた薄膜堆積により、ガラス基板上に有機ELデバイスを作製し、その電流-電圧-輝度特性、発光スペクトル測定など各種デバイス特性の評価を行う。	化学・物質工学系 2人	応相談	7月上旬～9月上旬	5日	他専門(電気電子工学系など)の学生も受入可(応相談)
8	地球環境工学科	先端材料物質工学	浪越 毅	精密重合による機能性高分子の合成	有機合成や高分子の合成を行うがテーマ、期間等の詳細については要相談	化学・物質工学系 2人	応相談	7月下旬～9月下旬	5～10日	白衣、保護メガネを持参することが望ましい（ない場合は貸与可）
9	地球環境工学科	先端材料物質工学	服部 和幸	糖質の化学と工学	有機化合物の化学反応や合成を行い、分子構造を解析したり物性を調べる。	化学・物質工学系 3人	応相談	8月～9月	5日	化学を学習したことのあること。有機化学に興味があれば望ましい。

NO	学科	コース	受入れ教員	テーマ名	研修の内容	対象学生 及び 受入可能人数	留学生	時期	実質実習 期間	備考
10	地域未来 デザイン工学科	機械知能・生体 工学	吉田 裕	電子顕微鏡を利用した材料の変形組織の評価・解析	材料強度及び力学への応用等	機械工学系 1人	応相談	8月上旬～9 月下旬	5日	
11	地域未来 デザイン工学科	機械知能・生体 工学	河野 義樹	数値シミュレーションを用いた物体の力学特性の調査	1.対象学生と面談の後、研究テーマ（数値解析対象）を決定 2.研究に必要な知識の学習 3.研究室に所属の学生と混じって研究を実施 4.ゼミへの参加体験 5.成果報告のプレゼンテーション	機械工学系2人、情報工学系1人、化学・物質工学系1人	応相談	7月1日～9 月6日	5日	実施内容、実施時期、実施期間は各高専の予定や単位の認定状況に合わせます。 ご相談下さい。 持参物：ノートPC
12	地域未来 デザイン工学科	機械知能・生体 工学	ラワンカル アビジート	AIを用いたロボットの制御	ゼロからAI（特に、コンピュータビジョン）や基礎知識について勉強します。課題をセットして、研究室の学生と一緒にプロジェクトをステップ・バイステップ進みます。学会論文の書き方について学習します。最後に、成果報告をします。	機械工学系1人、電気工学系1人、電子制御工学系1人、情報工学系2人	可	7月上旬～9 月上旬	5日	実施時期と実施期間は学生の単位・認定状況に合わせますのでご相談下さい。 持参物：ノートPC
13	地域未来 デザイン工学科	情報デザイン・コミュニケーション工学	榊井 文人	データサイエンス、AIを用いたカーリング支援技術の実践	データサイエンスアプローチまたはAIアプローチを用いて、カーリング競技または地域観光の支援に繋がる分析や実装を行うことで、テーマの意義と手段を学び、結果をまとめて発表する。	情報工学系2人	可	8月4日～9 月5日	実質実習期間 1～2週間程度を想定。	事前に面談を受けて下さい。ノートPCを持参して下さい。
14				データサイエンス、AIを用いた観光支援技術の実践						
15	地域未来 デザイン工学科	情報デザイン・コミュニケーション工学	竹腰 達哉	サブミリ波天文観測で探る宇宙の謎	電波望遠鏡は、宇宙や生命の誕生、そして星や銀河の進化の謎を解く重要なツールです。サブミリ波と呼ばれる波長の短い電波の観測装置の開発を体験したり、最先端の望遠鏡・観測装置で取得したデータの解析を経験して、電波天文学で用いる科学技術への理解を深めよう。	機械工学系1人、電気工学系1人、電子制御工学系1人、情報工学系1人	可	8月上旬～9 月下旬	5～10日	ノートパソコン持参、受け入れ人数、期間などは要相談
16	地域未来 デザイン工学科	バイオ食品工学	小西 正朗	微生物培養による有用物質生産	無菌操作による継代、フラスコもしくは通気攪拌槽による培養、物質の定量(HPLC, GC等)	化学・物質工学系若干名	応相談	応相談	5日～14日	持参物：筆記用具、白衣
17	地球環境工学科・ 地域未来デザイン工学科	地域マネジメント工学	内島典子、三枝昌弘、ウ アテイ	工学技術者に必要なマネジメント能力～地域マネジメント工学コースの学び～	①地域マネジメント工学コースの講義を体験する。 ②表計算ソフトウェアを用いてデータ集計を体験する。 ③研究ゼミに参加し、卒業研究を体験する。	系問わず 若干名	応相談	9月1日～9 月31日	5日	

○高等専門学校学生インターンシップ受入実施要項

平成25年 3月26日
一部改正 平成29年 6月20日
学 長 裁 定

(趣旨)

第1条 この要項は、北見工業大学（以下「本学」という。）において高等専門学校学生のインターンシップ（実習）受入に関して必要な事項を定めるものとする。

(実習対象者)

第2条 本学において実習を行う対象者は、学校教育法に定める高等専門学校の学生（以下「学生」という。）とする。

(実習期間)

第3条 インターンシップの実習期間は、原則として2週間以内とする。

(受入申請及び承認)

第4条 学生は、インターンシップにより実習しようとする場合、北見工業大学インターンシップ受入申請書（別紙様式1）に北見工業大学インターンシップ推薦書（別紙様式2）を添えて、別に定める期限までに、学長に提出しなければならない。

2 本学は、申請書を受理したときは、当該実習の能力が十分にあると認められる者について、本学の業務に支障がない場合は受入を承認し、北見工業大学インターンシップ受入決定通知書（別紙様式3）を交付する。

(誓約書)

第5条 受入を承認された学生（以下「実習生」という。）は、受入決定通知書受理後速やかに、誓約書（別紙様式4）を学長に提出しなければならない。

(服務)

第6条 実習生は、実習期間は専ら所定の実習に従事し、実習目的の達成に努めなければならない。

2 実習生は、実習期間中、北見工業大学が定める規則等を守り、実習生の指導監督を担当する教員（以下「実習担当者」という。）の指導、指示に従わなければならない。

3 実習生は、実習により得た情報（公開されているものを除く。）を漏らしてはならない。

4 実習生は、実習の成果として論文等を外部に発表する場合には、事前に学長及

び実習担当者の承認を得なければならない。

- 5 実習生は、病気等のため予定されていた実習を受ける事が出来ない場合には、あらかじめ実習担当者にその旨連絡しなければならない。

(実習の中止)

第7条 学長は次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、実習を中止することができる。

- (1) 実習生が第7条の規定による服務義務に従わない場合その他実習を継続することが困難であるとき。
- (2) 実習を継続することにより、業務に支障が生じ、又はそのおそれがあるとき。
- (3) 実習の目的を達成することが困難であると認められるとき。

(受入所属長の役割)

第8条 実習生の受入を行う所属の長は、実習が円滑かつ適切に行われるよう努めなければならない。

(事故責任等)

第9条 実習生は、実習中の事故に備え、学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入し、実習中の事故に関しては、自らの責任において対応しなければならない。

(その他)

第10条 この要項に定めるもののほか、インターンシップ受入に関する必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

この要項は、平成29年6月20日から施行する。

北見工業大学インターンシップ受入申請書

年 月 日

北見工業大学長 殿

学 校 名
フ リ ガ ナ
氏 名

印

北見工業大学高等専門学校学生インターンシップ受入実施要項(以下「要項」という。)第4条第1項の規定に基づき下記のとおり申請します。

なお、インターンシップの実施に関することについては、要項の規定を遵守します。

所属学科	本科 ・ 専攻科		学科	学 年	年
現 住 所	〒			性別	男 ・ 女
本人連絡先	TEL・携帯:		E-mail:		
第1希望	学科名	学科	教員名	テーマ番号:	
	希望期間	年 月 日 ～ 年 月 日			
第2希望	学科名	学科	教員名	テーマ番号:	
	希望期間	年 月 日 ～ 年 月 日			
学校責任者 連絡先	氏 名:		実習生との関係(□指導教員 □事務担当者)		
	職 名:		TEL:		
緊急時の 連絡先	氏 名:		続柄()		
	TEL・携帯:		E-mail:		

※本申請書における個人情報については、インターンシップにかかる業務を遂行するためのみに使用する。

※移動には公共交通機関を用いること、自動車・バイクによる移動は認めない。

北見工業大学インターンシップ推薦書

年 月 日

北見工業大学長 殿

学 校 名

責任者職名

氏 名

印

下記の学生は、貴学において当該実習の能力が十分にあると認められることから、北見工業大学高等専門学校学生インターンシップ受入実施要項第 4 条第 1 項の規定に基づき、推薦します。

記

(所属学科)

(学生氏名)